

横浜食肉市場ミート・フェアが開催されました

第36回横浜食肉市場ミート・フェアが、4月19日（金）に開催されました。今回は、全国から和牛の部に108頭、交雑種（乳牛の雌に和牛の雄を交配した雑種）の部に65頭、合計で173頭が出品されました。県内からは、和牛の部に4頭、交雑種の部に9頭、合計13頭が出品され、残念ながら入賞はありませんでしたが、セリでは高値で取引されていました。当所からは、普及指導課職員が審査員として出席し、これらの出品牛を審査しました。

冷蔵庫の中に整然と並ぶ枝肉は壮観で、枝肉の構成、枝肉重量、ロース芯面積、サシの入り、脂の質など全てが素晴らしく、生産者の特徴が出ており、出品に対する意気込みが感じられました。

和牛の部では、青森県の生産者が出品した去勢牛が名誉賞、交雑種の部では群馬県の生産者の雌牛が最優秀賞に選ばれました。

今年は特に、交雑種の中で等級や格付けが和牛に迫る個体が多く、品種改良や飼養管理技術の向上が感じられました。

依然として飼料価格の高騰が続き、肉牛肥育経営は苦しい状況にあります。

当所は、今回の結果も踏まえ県内の肉牛生産者が安心して経営を継続していけるよう、日頃の飼養管理技術向上等、生産基盤の強化を支援していきます。



和牛名誉賞の枝肉断面



肉牛枝肉の審査風景